

「森林・林業活動の普及啓発の取組み」

岐阜森林管理署岐阜事務所

流域管理調整官 遠藤 隆一

管理官 岩塚 伸人

1. 課題を取り上げた背景

国有林野事業は、国有林野に対する期待や要請に将来にわたって応えていけるよう、公益的機能の発揮を管理経営の基本に捉えた抜本的改革を推進し、平成15年度までの集中改革期間中に取組を集中的に進め、国有林野を国民の共通財産として、国民の参加の下に、国民のための管理経営し、名実ともに「国民の森林」にしていくこととし、管理経営基本計画が策定された。

こうした状況の中で、岐阜事務所管内には

- ・金華山・古城山国有林の都市近郊林が所在する
- ・長良川及び揖斐川の2流域がある ことなど

岐阜事務所の特色を生かし、森林の流域管理システムの下での民有林との連携強化、「国民の森林」としての国民に開かれた管理経営の推進に力を注ぐこととした。

2. 取組の経過

○ 地域ニーズの把握

- (1) 「総合的な学習の時間」の導入に向け、森林環境教育等に対する小中学校等からの森林教室の要請が増えてきている。
- (2) 地域の貴重な自然植生を残す都市近郊にある国有林の利用の要請が高まってきている。
- (3) 林業労働者の確保や伐木作業における安全教育の研修をはじめ、ボランティア団体等の林業体験の場の提供要請が増えてきている。
- (4) 地域との交流・各種イベント行事への参加などの要請が増えてきている。
- (5) 県や市町村、民有林関係者との連携、情報交換がより求められるようになってきている。などがある。

○ 岐阜事務所として優先的に取り組むべき課題の検討

- ① 森林環境教育等の推進
- ② 国有林野の活用の推進
- ③ 流域管理の連携強化

の三点を掲げ、森林・林業及び林業技術の普及啓発に取り組むこととした。

3. 地域ニーズ等をふまえた主な取組内容

- (1) 森林環境教育等の推進について

① 「総合的な学習の時間」の導入に向けて、都市近郊の国有林を教育フィールドとして利用頂くよう、金華山国有林は岐阜市に、古城山国有林は美濃市及び関市の教育委員会を通じて小中学校を対象に利用案内の協力要請を行った。

② 小中学校等への森林教室の実施、職場体験学習への協力について

○ 森林教室・職場体験学習の実施の推移 (実施回数)

実施年度	H 9	H 1 0	H 1 1	H 1 2	H 1 3
計	5	5	1 0	1 2	1 6

○ 森林教室、職場体験学習を金華山国有林等で実施したその一部は下記のとおり

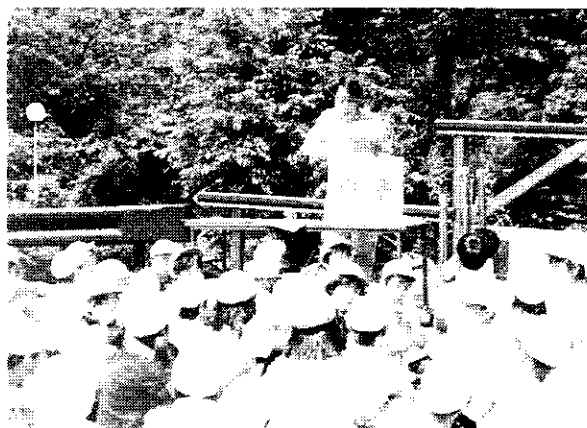
ア 岐阜市立金華小学校

愛鳥週間にちなんで50年以上前から「愛鳥林学習」の名称で、野鳥の保護等に努めてきており、平成12年度からは3年生の「総合的な学習の時間」の対象の一つで、金華山での野外活動を続けている。

イ 岐阜市立長良西小学校

古くから「西っ子総合学習」の名称で金華山活動に取り組んできており、平成12年度からは5年生の「総合的な学習の時間」の一環として、年間を通じて金華山活動を続けている。

また、先進的な学校として、モデルになる教育をしていると、注目を浴びている。



森林教室の風景 (岐阜市立長良西小学校)

ウ 岐阜市立長良小学校

約10年程前から「郷土を素材にした学習」を実施しており、平成12年度からは3年生の「総合的な学習の時間」と位置づけ、金華山ほかで活動を続けている。

エ 岐阜市立梅林小学校

学校近くの梅林山などで、「総合的な学習の時間」として、樹木調査などを行っており、講師を派遣して樹木の名前などを教えている。

オ 岐阜市立岐阜養護学校

平成12年度に「総合的な学習の時間」として金華山学習を設定し、高等部普通コース2年生にはインタビュー形式による質問の応答、高等部工業コース2年生には枝払い及び草刈りの体験学習をした。

カ これ以外に、手作りのアイデアによる森林の大切さなどを、幼稚園児や岐阜市以外の近隣の町の小学校などに教えている。

キ 岐阜市立井奈波中学校

「進路学習の一環として働く事の意義や目的を考える場・これからの進路を考える場」として位置づけた職場体験学習に、空中写真の実体視や、コンパスを使用した測量など、業務の一部を2年生のグループに体験させた。

③ 一般市民への森林学習の実施について

地元金華校下の「夢づくり金華山ふれあいフェスター」において、校下の子どもや父兄に、また、コープ岐阜の「親子で登ろう金華山」の親子に行い、森林資源や自然環境を大切にす

る心を育み、森林・林業の理解を深めることができた。

(2) 国有林野の活用の推進について

① 林業高校や大学などの授業に国有林野の活用について

岐阜県立岐阜農林高校は、森林科学科生の学習指導の一環として、地域の貴重な自然植生を残す金華山国有林で、植生・樹木検索の実習を毎年実施している。

また、国立岐阜大学には金華山国有林を、岐阜県立森林文化アカデミーには古城山国有林を教育活動に提供し、専門教育の充実に寄与しています。

② 地域の林業団体の現地研修に対する技術協力及びフィールドの提供について、岐阜県林業労働力確保支援センターが実施する新規林業就労者及び基幹林業労働者研修、また、林災防（林業・木材製造業労働災害防止協会岐阜県支部）が実施する伐木作業従事者特別教育など、林業労働者の現地におけるチェンソーを使用した安全教育の講習等に対して、フィールドの提供をしている。



新規林業就労者研修（美濃市官行造林地）

③ ボランティア団体などが実施している森林整備について

連合岐阜（日本労働組合総連合会岐阜県連合会）が実施した間伐作業、及び林業土木協会岐阜支部が実施した下刈作業に、技術指導・安全指導を行った。

④ 森林ボランティア団体との「ふれあいの森」の設定について

森林ボランティア団体「樹遊人塾」と神崎国有林に設定し、緑への関心を高め、豊かな森林づくり、森林文化を創造する21世紀型社会の構築に寄与する足がかりをつくった。

○ 民有林からの求めに応じた技術協力及びフィールド提供の推移（実施回数）

実施年度	H19	H10	H11	H12	H13
計	8	8	11	14	20

(3) 流域管理の連携強化について

- ① 流域森林・林業活性化協議会への積極的な参加と意見交換に努めています。
- ② 県や市町村、民有林関係者との連携、情報交換に積極的に努め、岐阜県との「連絡室」の機能アップ、地域との連携強化に努めています。
- ③ 地域のイベントへの積極的な参加について
「岐阜県みどりの祭り」や「森と木のふれあいフェア」に積極的に参加し、竹とんぼづくり、丸太切り体験、木工品やパネル展示など、国有林のPRに努めた。

4. 今後の課題

以上のように取り組んできた結果、一定の成果をあげたが、なお今後、次の課題がある。

- (1) 県や市町村等と一体となった流域管理システムの推進のために、岐阜県との「連絡室」の機能や、市町村、民有林関係者との情報交換、地域との連携の維持を図り、将来にわたっても機能を果たせる組織が必要と考える。
- (2) 都市近郊にある国有林のより一層の利用拡大を図るために、岐阜市内で森林環境教育などの実施を行っている学校は多くあるので、遠距離にある学校にも国有林野の利用拡大に向けた働きかけをしていく必要がある。
- (3) 森林教室、技術指導、イベントの参加については、いつでも対応できる体制づくりが必要である。
- (4) ボランティア団体に、森林整備や森林環境美化運動への参加呼びかけを行い、自主的な活動に広げていく必要がある。などが考えられる。

今後も、地域との連携を密にし、地域ニーズの把握に努め、森林環境教育、国有林野の活用の推進など、岐阜事務所職員全員で森林・林業活動の普及・啓発に取り組む決意である。

以上